

【補足資料】岩槻新校準備委員会（第1回） 議事詳細

- 1 日 時 令和5年1月16日（月） 午前10時開会
午前11時40分終了
- 2 会 場 県立岩槻高等学校会議室
- 3 出席委員 臼倉委員長、関根副委員長、竹本副委員長、鴨志田委員、田中委員、
渋谷委員、渡邊委員、手島委員、井上委員、真中委員、佐藤委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 栗藤、中島、坂本、高辻、橋本
- 5 協議等 「岩槻新校基本計画検討（案）」について
臼倉委員長 次第3、協議に入ります。まず、事務局から本委員会についての説明をお願いします。
事務局 （新校準備委員会について、今後のスケジュールについて説明）
臼倉委員長 ただ今の事務局からの説明について、何か御質問等ございますでしょうか。本委員会の位置付け、またスケジュールにつきましてはよろしいでしょうか。続きまして、既に令和4年10月に策定、公表されました、魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について、事務局から説明をお願いします。
事務局 （魅力ある県立高校づくり第2期実施方策について説明）
臼倉委員長 今の説明につきまして、何か御質問、御意見ありますでしょうか。資料2が昨年10月の段階で公表したもので、記者発表、あるいは新聞等で御覧になった方もいらっしゃるかと思いますが。はい、佐藤委員お願いします。
佐藤委員 1点だけ、確認と言いますか、皆さんにも知っておいていただきたいことがございまして、新校の概要で、国際に関する学科とございます。こちらについてなのですが、今現在、県立高校には、外国語学科というものがございます。国際に関する学科と外国語科の違いについて、事務局から教えていただきたいというのと、国際に関する学科について、これがどのようなものなのか、具体的なイメージみたいなものがあればいただきたいと思います。
臼倉委員長 それでは、事務局お願いします。
事務局 それでは、御質問があった二つの点について御説明いたします。国際に関する学科と外国語科の違いですけれども、現在、埼玉県内の七つの学校に、外国語科がございまして、全国的に見ますと、外国語科という名称は少なくなってきておりまして、国際科や国際教養科など、いろいろ国際に関する名前が付くところが増えていくのが実情です。私たちが考えるに、変化の著しいグローバルな時代を切り拓く、国内外を問わずに活躍していくというためには、広い視野を持って、自国の伝統や

文化について理解を深めるとともに、他国の文化や価値観を尊重する態度を身に付けることが必要なのだと思います。そのため、もちろんこれまで外国語科で実践されてきた語学力の育成というものは大切なものとして考えていますが、それに加えて、地球規模の諸課題等について深く掘り下げて探究し積極的に発信していく、このような能力が必要だと議論しているところです。これまでの外国語科だけでなく、他教科を横断するような学びが求められているというふうに考えています。実はこの岩槻高校に、国際文化科がございまして、国際文化科の学びに近いところもあります。現在の外国語科の学びを教科横断型の学びに発展させていくようなイメージになるかと思います。具体的にどんな学びが考えられるかということで、私はもともと高校で地理を教えてきた人間なので、地理に絡めてお話させていただくと、例えば世界の様々な地域を理解するために、食文化に着目することがあると思います。イスラームの人々、ムスリムと言われるイスラーム信徒の皆さんは、ハラームという、やってはいけないという教えで、例えば、アルコールを摂取してはいけないとか、豚肉を食べてはいけないとかがあります。こういったことを授業の中で、ハラール食材として、逆に食べても大丈夫だと認証された食材を紹介し、実際にムスリムの方に食事を提供するといった取組などはどうかと考えたときに、こういった学びにつながるのかと考えています。イスラームの歴史については、世界史で教えているかもしれませんが。ハラールやハラームといったイスラームの文化については、地理の授業で触れることがあります。ハラール食材の調理を実際に行っているということは、家庭科の中で学びがあると思いますが、こういったものを、それぞれ教科を超えて学びを展開していくということです。理想を言えば、これに更にアラビア語を教える非常勤の先生がいてくださって、言葉も含めて取組ができれば、非常にグローバルな、これまでの外国語科の学びを更に拡大して、教科横断型のグローバルな学びができると考えています。長くなりましたが、説明は以上です。

臼倉委員長 佐藤委員、よろしいでしょうか。世の中も移り変わっていますので、どういったところまで視野を広げて考えてくかということが大事だと思います。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、資料3になるでしょうか、新校基本計画検討委員会において検討されました、岩槻新校基本計画検討（案）について、御協議をお願いしたいと思います。かなり長いものになりますので、途中切りながら進めていきたいと思います。まず、事務局の方からの説明から入りたいと思います。

事務局 （岩槻新校基本計画検討（案）のうち基本理念（目指す学校、育てたい生徒像）、基本姿勢について説明）

臼倉委員長 2ページの上段部分まで説明がありました。先ほど冒頭に説明がありました参考資料の児玉新校基本計画を見ていただくと、これから我々がやろうとしている作業のゴールと言いますか、完成形が見えると思います。2ページ目に出てくるような文言で整理されて記載されていくと。そういったものをこの後、作っていくこととなります。資料3に戻りますと、今の段階では岩槻高校案、岩槻北陵高校案ということで両論併記となっていますが、これを一つのものにまとめるに当たって、一番右側にあります論点にも着目して一つにまとめていくこととなります。基

本姿勢までのところで、御意見を、あるいは御質問でも結構です。ここは大事ですよねとか、こういうフレーズがキーワードではないでしょうかといったことでも結構ですし、御意見、御質問を頂戴したいと思います。鴨志田委員、お願いします。

鴨志田委員 岩槻新校の基本方針のところで確認をしたいと思うのですが、さいたま市にある高校ということで考えてみますと、さいたま市では今、例えばグローバルスタディですとか STEAMS 教育を、全部の小・中学校でやっています。ですから、小・中・高の連携というところで、小・中学校で学んできたことについて、より深く勉強していくということも大事だなと思います。そういった点も考えていってほしいなと思っております。それから、基本方針の中にありますように、さいたま市と言っても、岩槻というのは、歴史があったりとか、それから地場産業であったりとか、そういった面ではやはり同じさいたま市でも浦和とか大宮とか違って伝統があると思いますし、それから、例えば最近では、岩槻はヨーロッパ野菜研究会などの新しい産業ができています。そういった意味でも、是非この基本方針の1番、2番については、さいたま市の小・中学校の取組について、継続性をお願いしたいということと、3番については、岩槻という独自性を生んでほしいなと思います。以上です。

事務局 ありがとうございます。そういった観点ももちろん大事なことだと考えていますので、次の基本計画検討委員会に意見として持っていきたいと思います。

臼倉委員長 ありがとうございます。その他ございますでしょうか。田中委員、お願いします。

田中委員 2点ありまして、1点目はまず、私の大学の話を最初にさせていただくと、獨協大学は「語学の獨協」と言われておりまして、留学生が海外からやってきて、あるいは本学の学生が留学するのですが、本学の学生が留学生あるいは外国の方と話をするとき、相手が言っていることは分かるけれども、相手からの質問に答えられないことがあります。その相手からの質問というのは、日本についてであったり、自分の住んでいる地域について聞かれたときに、向こうの人の国や文化であるとか地域のことはいろいろと話を聞いてくるのに、こちらからは言えない。例えば本学は草加市にありますが、草加の歴史について詳しくない。それこそ、草加市はせんべいで有名でせんべいを焼く体験もできるのですが、せんべいを焼いたことがある学生は多分1%いないと思います。もう少し、地元の音楽であるとか、あるいは出身地域について知った上で留学するとか、海外の人との交流を図ることが非常に重要ではないかと思います。単純に外国語を学ぶとか外国の文化を学ぶことも大事ですが、自国のことを学ぶことも必要だと思いました。後は、先ほど小・中・高の連携という話がありましたが、高校から就職する方もいらっしゃるし、進学する方もいらっしゃると思いますが、大学の立場で言うと、高校と大学の連携をもっと図られても良いかなと思います。語学教育もそうですし、ICT教育もそうだと思いますが、高校でどういう教育を受けてきたかということや大学側は余り理解していないとか、もう少し、生徒さんと大学生とか、教員同士でも職員同士でもそうですが、交流を持った方が良いと思いました。

臼倉委員長 ありがとうございます。事務局からありますでしょうか。

事務局 私たちが考えている方向でもありますので、是非そういった方向で、今後も基本コンセプトを検討してまいりたいと思います。

臼倉委員長 連携というのはキーワードになると思います。小・中の連携、あるいは大学との連携ですとか、地域との連携、この辺りは大事にしていきたいと思っております。また、自国の伝統・文化については、岩槻北陵高校案にも記載がありますので、その点も踏まえて検討をよろしくお願いします。

関根副委員長 岩槻高校案についてですが、論点の方については、案を考える際に意識が足りなかったのかなと思います。要は、目指す学校ア、イ、ウとありますが、国際感覚や語学力を身に付けるという観点での表現が足りなかったのかなと思います。育てたい生徒像の中に、グローバルな視点で、と書いてありますが、目指す学校としてこの表現がないというのは、基本方針の部分が反映されていない感じがします。国際感覚や語学力を身に付けるということが新校の魅力につながる部分になるかと思っておりますので、ここは何らかの形で文言をしっかりと加えた方が良いかなと考えております。鴨志田委員からありました、さいたま市の学校で行っている教育をうまく新校に継承しつつ、旧東部地区にあった学校ですので、結構、春日部方面の学校から来る生徒も多いですから、プラスして、岩槻新校で学びたいという中学生が来るようなことは取り組んでいければと思っております。岩槻はこれだけ歴史がある地域ですので、こちらについても、もう少し表現を明確にしたものが文言として入り込むと、目指す学校として形になるのかなと思います。ですので、岩槻高校案は作りましたけれども、委員の皆様から、こういった文言が入った方が良いのではないかと御意見をいただくと、次の新校基本計画検討委員会にもつながると思っておりますので、よろしくお願いします。

臼倉委員長 ありがとうございます。その他いかがでしょうか。手島委員お願いします。

手島委員 表現は難しいかと思うのですが、学校として目指すからには、もしできたら、誰もがこぞって入学したくなるような学校、あるいは、学んで良かったと思える学校、あるいは、この学校を卒業してよかったと実感できるような学校、そんなニュアンスが入ると、卒業生も在校生も誇りが持てるのではないかと思います。難しいかとは思いますが。

臼倉委員長 事務局からお願いします。

事務局 ありがとうございます。私たちも、卒業された方が本当に誇りを持てるような、そんな学校づくりを進めていきたいと思っておりますので、その中での魅力として、いろいろなアイデアを頂戴できればと思っております。

臼倉委員長 その他いかがでしょうか。はい、お願いします。

渡邊委員 地元中学校の方に勤めていますけれども、この論点のところに、語学力を身に付けというのがあり、先ほど事務局から説明があった中でアラビア語とかという話もありましたが、この語学力というところで、是非、英語に偏らない多言語が学べる学校という形で進めていければ良いと思っております。近いところで、中国

の関係であったりとかベトナムの関係であったりとか、あるいは本校にはパキスタン関係の生徒など結構在籍しておりまして、本当にいろいろな言語で学ぶというか母国語として持っている生徒がたくさんおりますので、是非そういった生徒たちも含めて学べる学校であり、またそれを学んだところで、体験活動等をする、そういったことができる学校にしていなければ有り難いと思います。ただ学んでいくだけではなくて、そういったところから活用できる、交流できる、国際感覚を身に付けられる生徒を育成していただければ有り難いと思っております。よろしくお願ひします。

事務局 ありがとうございます。先ほど少しお話をさせていただいた、県内にある外国語科を設置している学校も、英語に加えて第二外国語として様々な言語を用意しています。なかなかアジアの言葉というと、教えられる教員の確保も難しいですけども、こちらの学校にはそうした生徒、外国にルーツのある生徒が結構多いという話もありますので、是非そういったところもうまく盛り込み、渡邊委員御指摘の、体験的・実践的な授業が組み立てられるようにしていきたいと思っております。

臼倉委員長 ありがとうございます。渋谷委員をお願いします。

渋谷委員 グローバル人材という言葉が巷では結構言われていますが、グローバル人材と一言にいってもいろいろあるなと考えておりまして、実践的なグローバル人材を育てる必要があるかと思ひます。例えばですが、我々ビジネスマンとしての話になってしまいますが、例えば海外に行って、あちらのいろいろな企業の方と会って、自分の会社のプレゼンをする、その後ディスカッションをするといったときに、語学という意味では、英語が話せるということはもうベースにないとその土台に乗れないので、学校で語学を話せる教育をしていただきたいというのがベースにございます。それにプラスアルファがないと、あちらの技術者、エンジニアと対等に話すことはできないというのが現状でございます。それをどのように解決するかということ考えたときに、どんどん学生のと看から海外に出ていく機会を増やせば良いのかなと考えております。痛い目に遭わないと、多分、自分の力の無さが分からないというふうに考えておりまして、うちの会社も、若いときからどんどん海外に行くように言っています。それで何を学んで帰ってくるかは個人差がありますが、中には、痛い目に遭って、英語を勉強しようという人が自発的に育ってくるという現状がございます。なので、一つ申し上げたいのは、どんどん外に、海外にもっと出せるようなシステムが、もし可能であれば、できれば良いのかなと感じています。あともう1点なのですが、基本姿勢の論点にある、地域との協働ということで、私ども、岩槻工業団地には125の企業があります。全国でも3番目に多い企業数を有する工業団地でございます。岩槻にはそういった工業団地がございますので、地域との協働という意味では、工業団地の企業をうまく利用していただければ、もしかしたら良いヒントなりが得られるのかなと感じたところでございます。最後に1点。能力の三つの柱についての説明がありましたが、聞き逃してしまつたので、どこかに書いてありますでしょうか。それが最後の質問です。

事務局 ありがとうございます。特に企業の側からの知見と言ひますか、お話をい

ただいたと思っております。外国に行く機会というのは、コロナでなかなか難しかった時期もあったのですが、是非この先、そういったこともクリアされて、生徒が海外に出ていく、あるいは自国の伝統・文化を海外に向けて発信する機会が増えることを期待したいと思っておりますし、そういったところは大変重要な視点だと考えます。また、地元の企業の皆さんとの連携みたいなところも、学校というと小・中学校や大学など、学校同士の連携というのは比較的進みやすいのですが、企業や地元岩槻の皆さんとの交流も、更に充実させていく必要があるのかなと感じています。能力の三つの柱については、学習指導要領から引っ張ってきていますが、本日の資料の中には掲載はございませんので、申し訳ございません。

臼倉委員長 他、いかがでしょうか。この部分は、新校づくりの一番大事な部分と言いますか、細かいところを決めていく中で、今議論しているものが様々な具体的な案でできてくることになると思いますので、是非、このところは丁寧に進めていきたいと思っております。この後作業をしていく中で、是非これはというものがあれば、お願いできればと思います。

井上委員 進学を重視しというのが目指す学校のところにあるのですが、せっかくもし新校で自国の文化を学んだりとか、地域の方と連携したりとかする機会があり、企業の皆さんと交流することがあるのであれば、自国の文化を更に学べたり、地域の人たちの企業に就職ができたとか、両方の面を表面に出した方が、学校を選ぶ親としては、少し気になるかなというところがあります。

臼倉委員長 事務局お願いします。

事務局 生徒たちの進路というのは、多様な進路がありますので、進学のことをうたわせていただいておりますが、他にも、進学した後で地元の企業に戻ってくる方もいるでしょうし、高校を卒業したままそのまま就職する方もいると思います。地元の人材という意味で、グローバルな人材として海外に行ってしまうのではなくて、是非地域で、グローバルな発想を持ったり、世界の人たちとつながっていくという志向を持った人を育てていければ良いと思っております。御意見ありがとうございます。

真中委員 私は地元で起業して会社を経営しておりますが、その中である奉仕団体に入っております、そちらに青少年交換留学生制度というものがあります。岩槻高校からもインターアクト部等に御参加いただき、そういったところで、1年間ですけれども海外に留学して語学の勉強をしてきたりして、人間的に成長して戻ってくる高校生の生徒も何人かいます。また、大学生で言うと、獨協大学もそうですが、近隣の大学ということで埼玉大学や共栄大学などで、中国の留学生や韓国などいろいろなところからの留学生を、奨学生として奨学金を授与したりしています。その中で、そういった異国、外国の方と交流を持って、そちらの文化をしっかりと学ぶということはあるものの、一方で日本の文化をしっかりと勉強しきっていません。その中で国際感覚、グローバル感覚を身に付けさせるということで、興味を持たせる中で、例えば、留学制度であるとか、交換留学生制度など、いろいろな団体があり、外国の方との交流の場も数多くありますので、そういったところと学校との連携も

含んで考えていってもらいたいと思います。

事務局 ありがとうございます。現在でもいろいろな学校がそういった取組をしていて、また、真中委員からお話いただいたように、いろいろな地域の方々の御協力で、若いうちに生徒たちがいろいろなグローバルな体験をしていくという大事な経験につながっていくのかなと感じています。現在ある制度を更に、教育委員会でもそういった制度を持っていますし、いろいろな団体の制度もありますので、上手に活用していきたいと思います。

臼倉委員長 よろしいでしょうか。様々な御意見をいただきましたので、これらを踏まえて、事務局で検討を進めてもらいたいと思います。次に進みたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局 (岩槻新校基本計画検討(案)のうち教科指導について説明)

臼倉委員長 御質問、御意見等がありましたらお願いします。教科指導についてどういう姿勢で臨むかということになるかと思えます。細かく教科ごとに切り分けているわけではないので、学校全体としての教科指導として、主に授業が中心になるかと思えますが、こういう形でやっていきたいというものになります。いかがでしょうか。渋谷委員、お願いします。

渋谷委員 田中先生にお伺いしたいのですが、ICTツールの活用ということで、我々は普段からICTツールを知らず知らずのうちに使っているのかなと思えます。LINEだったりFacebookだったり、これらもICTツールの一つかなと思っているのですが、間違っていたら教えていただきたいのですが、特に高校教育で活用するICTというのは、今申し上げたアプリケーション以外にも何かあるのでしょうか。

臼倉委員長 田中委員、お願いします。

田中委員 実はICTに関しては私も質問させていただきたかったところなのですが、私がイメージしているICTは、例えばパソコンで、プレゼンテーションする画面の資料をPowerPointで作って、それを使ってプレゼンしたり、あるいはビデオ会議システムみたいなものを使って、離れたところにいる相手に対して授業するとか、そういったこともあるでしょうし、先ほどおっしゃった、Facebookなどというのは、どちらかというとSNSというくくりになるかと思えます。そういったものを活用して、離れた場所にいる人との交流も必要でしょうから、それはそれで一つのやり方だと思います。私が質問させていただきたかったのは、今回、新校の話よりかなり大きな話になると思いますが、県の教育として、ICTをこう活用するみたいな定義というか方針みたいなものはあるのでしょうか。あるいは、それは、高校の方にある程度委ねられているというか、権限が任されているものなのでしょうか。漠然とした質問で申し訳ございませんが。

臼倉委員長 事務局からお願いします。

事務局 コロナ禍の中で、国が予算等を措置して、GIGAスクール構想と言っておりますが、ネットの環境を中心に整備すること、それから小・中の義務教育の段階では、一人一台の端末を用意するなど、こういったことがすごいスピードで進みま

した。今、県立の高校についても、ネット環境をしっかりと、ということで、今の段階では、BYODというところ、Bring Your Own Deviceということで、自分の機器を持ち込んで、それをネットとつないでいろいろやるというものなのですが、そうしたことになっています。県の施策については、申し訳ございません、しっかり押さえてこなかったのですが、今、県全体で、ICTを活用した教育をこんなふうに進めていくという目標体系を作っているところかと思っています。それよりも先行して、国の施策等との絡みもあって、ネットの環境はもう完成しましたので、ここをいかに活用するかというところは、各校の工夫の段階なのかなと思っています。これまでできなかったことができるようになってきたというところを、是非ICTの活用という点では強みと考えて、田中委員からお話いただいたような、ライブ配信もそうですし、単なるPCを文房具に使うということ以上の使い方ができると良いのかと考えています。そういったことも新校には取り入れていきたいと考えているところです。もし現在の学校の様子等が分かるようであれば、そういったお話があっても良いかと思えます。

関根副委員長 現在の岩槻高校の例ですけれども、まず県の方から、各教室にプロジェクターが設置されましたので、そして教員の指導用のパソコンもありますから、まず授業で、今までずっとチョーク&トークでやってきたような伝統的な授業から、画像とかいろいろな資料を提示したり、または生徒が持っている貸出用のパソコンでも、すぐにプリントアウトしなくてもデータを載せることが可能となっています。つまり、効率的な教え方ができるようになったということです。あとは、昨今、学級閉鎖になったときの対応ということもあるのですが、一番大きいのは、来年度の1年生から、一人一台端末導入ということで、これは国の施策でもありますので、こちらについては、岩槻高校はiPadを購入することになっています。ただ、機器を購入したところで使えないとだめなので、本校の授業で使うであろうアプリケーション、ソフトを一緒に購入して導入することになるかと思えます。こちらについては、例えばプレゼンテーションで用いるのはもちろんですが、一人が入力してみんなで共有できるようなソフトですとかそういったものを使って、ではどういう授業をやっているかというのがこれからの課題ではあります。恐らく新校に向けては、ある程度当たり前になってくる状況になるのかと思っていますが、教職員にとっては温度差があるので、そちらの方も、どういうふうに効果的なICTを使った教育ができるのか、併せて、グローバルということであれば、端末を使って海外とやり取りをするということも可能になってくると思えますので、こちらについても検討の段階ではありますが、いずれにしても、教室ではプロジェクターをうまく使うこと、ICT活用については来年度の1年生からは全員、端末を導入して授業に活用していくということになります。こちらについても恐らくさいたま市は進んでいるのかと思えます。今のところはこういった段階です。

竹本副委員長 重複しないところでお話させていただこうと思えます。本校の場合は、一つは、リクルートのスタディサプリ、さいたま市では全校に導入していると思えますが、本校はそれを導入して、授業だけでなく、生徒に課題として、ここをやっ

てきてくださいと、そしてそれに応じた到達度テストもやっています。その他に、スタディサプリの中で、教育相談的な、いわゆる担任と生徒の困り事の相談についても、そういうものを通してやっております。その他、コロナも少し落ち着いたということで、協調学習なりグループ学習をする中で、各班が Google Jamboard という Google の一つのアプリなのですが、付箋的なものでそれぞれの班が考えたことを Jamboard 上に発表して共有して、授業として活用しています。随分幅広くやっています。先ほど関根校長からもお話がありましたが、いよいよ来年度の入学生には一人一台タブレットということで、本校の場合は、いわゆる G I G A スクールの、タブレットの標準的な仕様がありますので、それを満たしているようであれば、購入を全員にお願いすることになるかと思えます。そんな形で進めています。特に、どこの学校でも課題かと思えますが、一人一台のタブレットを、各教員がどういう形で生徒に使わせるのか、どういう場面で使わせるのかというのは、これは当該校だけでなく、県立高校全ての学校の一つの課題ではないかと思っているところです。

臼倉委員長 ありがとうございます。ICTについては急にコロナのときに広がっていったということもあります。また、この先も恐らくどんどん進化を続けていくのだらうと思えます。この辺り、しっかり情報を取って、逆に今やっている作業はどんどん古くなっていくと思えます。将来に渡って使えるような、汎用性のある、何か開かれた、進化できると言いましょうか、そういう形でお考えいただく必要があるのかと思えます。よろしくお願ひします。何か教科指導の関係でこれはということがあればおっしゃっていただければと思ひますが、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。両校からかなり細かく挙げていただいておりますので、検討を進めていただければと思ひます。では、事務局からその先の説明をお願いします。

事務局 (岩槻新校基本計画検討(案)のうち生徒指導について説明)

臼倉委員長 何か御意見があればお願いします。渡邊委員、お願いします。

渡邊委員 根本として、岩槻新校になるといったときに、岩槻高校と岩槻北陵高校が出てきたということで、生徒の数というのもあると思ひます。募集人員ということで。随分前の話で言ひますと、岩槻北陵高校については、入学後に生徒の数が減少してしまうこともあったかと思ひます。その辺も含めて、生徒指導という部分はやはり目的意識を持って学ばせていただひて、入学した生徒が最後までしっかり学べるように、是非、御指導いただければ有り難いかなと思ひています。それ自体は、学校だけの責任ではなく、家庭の指導というところもあると思ひのですが、是非、中学校側としても、そういったところ、しっかりと目的意識を持って卒業させていきたいと思ひております。岩槻北陵高校については、何回かお話させていただきましたが、学び直しができる学校ということで、子供たちが充実して高校生活を送れるようにと配慮して指導していただひているところですし、送り出した側から、学び直しを高校にさせるというのは申し訳ないと考えて思ひますが、子供に寄り添って指導していただくこと、不安定な年代の子供たちが安心して学べる学校というところで、具現化にもスクールソーシャルワーカーの活用ということも入っていますが、自己肯定感や自己有用感を育てていただひて、社会に貢献できる人間、自分から進

んで学べる人間を育成していただければ有り難いと考えております。私たち中学校側もこの後、送り出す側として改善していかなければならないところはたくさんあるかと思いますが、是非高校と連携して、子供たちが一生懸命学べる入学して良かった、新しい学校に入りたいと思える学校になるよう、学習だけでなく、生徒指導の面でも是非、面倒を見ていただければ有り難いと思っております。よろしく願います。

臼倉委員長 事務局からありますでしょうか。

事務局 貴重な御意見、ありがとうございます。私たちも非常に大事なところだと考えております。中学校の先生方からの期待、あるいは地域の中学生はもちろん、保護者からの期待をしっかりと受け止めていきながら、新しい学校にしていきたいと思っております。やはり、生徒指導というところでは、どれだけ生徒に寄り添えるかということかと思うのですが、そのための専任のスタッフなどが用意できると良いのですが、そういうことを念頭に置きながらより良い生徒指導をできる新校を目指していきたいと思っております。

臼倉委員長 その他、何かございますか。右側の論点のところにも、細かく課題についてテーマを挙げていただいておりますので、この辺り一つ一つ吟味しながら作成をお願いします。では次に移ります。事務局から説明をお願いします。

事務局 (岩槻新校基本計画検討(案)のうち進路指導について説明)

臼倉委員長 進路指導です。いかがでしょうか。高校から先の進路となりますので、様々な道に進んでいくことになるかと思っております。先ほどもありましたが、一人一人に応じてきめ細かく対応していくというところは、両校案に共通していることですので、これを基本として、文言修正につながっていくと思っております。いろいろな視点が論点に上がっておりますので、この辺りを盛り込んだ案になっていくのかなと思っております。何かあれば出していただければと思っております。よろしいでしょうか。

関根委員長 一つだけお願いします。岩槻高校案では進学色が強いのですけれども、例えば、岩槻高校の現在の状況で言えば、四大、短大、専門学校、公務員、あと就職とありまして、多岐に渡っています。例えば具現化アの、多様な人材との交流と出ているのは、大学進学、大学等だけでなく、もちろん社会人の方や地元の方などいろいろな交流があるということで幅広く捉えていただけると良いと思っております。

臼倉委員長 その他、ありますでしょうか。では説明を続けてください。

事務局 (岩槻新校基本計画検討(案)のうち生徒募集について説明)

臼倉委員長 生徒募集について、いかがでしょうか。保護者の御立場ですとかあるいは中学校から何かあればお願いできればと思っておりますが、佐藤委員、お願いします。

佐藤委員 生徒募集の関係なのですが、観点としては、学校がどういったものなのか、現実的にどういう状況なのか、どういった内容でやっているのか、そういったことをお知らせする、知っていただく、十分に認識していただくといったことが重要だと思っておりますので、そのような観点から、どういった生徒募集が効果的なのかといったところを、入れる側と送る側の両者が連携しながらやっていくというそういった視点を重要視していくことが大事なのかと考えております。

事務局 今回の県立高校では生徒募集は大きな課題になりますので、様々な形で学校を教職員が訪問したり、卒業生に中学校に帰ってもらって、母校訪問という言い方をしますけれども、卒業生として今通っている自分の高校の良さを説明してもらうなど、とにかく学校を知っていただく機会というのを中学校に対しては展開しています。また、地域の皆さんと、例えば企業の方と連携して様々な取組を行ったりということが、地域の中で話題になると、そういった連携も進めている学校もありますので、そうした良い事例をうまく活用しながら、岩槻新校においても、どんな取組を行う学校なのかをしっかりと伝えられるような、そういった仕組みを取り入れていけると良いと考えています。

臼倉委員長 司会からで申し訳ないのですが、今ある学校であれば日々の教育活動を見に来てくださいと言えらると思うのですが、新しくでき上がる学校のPRの工夫について、何かあったら教えていただきたいのですが。

事務局 まさに今、第1期校としてこの4月に開校するのですが、その中で、先ほどSNSという話がありましたが、飯能新校については、非常にSNSを上手に活用しています。言ってみればまだ現実にはないもののイメージを売り込まないといけないので、そのイメージをどう作っていくかということに関しましては、新しく専用のホームページを立ち上げています。これは児玉新校でも当然行われていますし、児玉新校は児玉新校で、360度ビューワーという、非常に施設をうまく紹介するためのものを使ったり、いろいろな取組があるのですが、まずはそうしたメディア、SNS等をうまく活用していくと良いのかと考えています。

臼倉委員長 ありがとうございます。その他、何かありますか。

渡邊委員 まだ開いていない学校の募集となりますので、何ができるのか、どういうふうに分かるのかということですが、もっと入学前に、子供たちが進路を考える際に、はっきりと分かるというか、先ほど進路指導の具現化のところ、海外との連携と書いてありますが、例えば、具体的にどういうことができるのかということが分かっていかないと、結局、これまである学校の中の一つが再編されたというだけで終わってしまうというのは本当に残念なことになりますので、是非特徴を持って、ここに行けば何ができるということを大きくアピールしていただくと、私たちもこういうのが良いというふうに言いやすいかなと思います。私の経験で言うと、上尾鷹の台高校が沼南高校から変わった際に、高校の先生からは、勉強が苦手な子たちをいっぱい入れていく学校にしたいんです、だから受験させてほしいですというお話を受けて、では苦手な子の方が良いのですかと言ったら、試験をするので上から取りますということでした。子供たちからすればどっちなんだろうと迷ってしまったということもあります。ですので、是非、はっきりと分かるようにして、本当に既存の学校とは違うんだというところが、入ったら分かるではなく、1年前に募集をする前に、しっかり分かるようにお話いただくと有り難いと考えております。

事務局 御意見ありがとうございます。つつい私たちも戦術みたいなものにこだわってしまって、大事な戦略を練っていくということを疎かにしてしまう可能性もあ

ります。御指摘をしっかりと受け止めて、こんな学校なのかということが、まずはこの委員会の中で議論されていることを伺っていき、それが生徒募集を実際に行うのは当該の学校の教員なのですが、教員にうまくコンセプトが落とし込まれ、しっかりと自分たちの言葉で伝えられるよう、そういった形で広報ができれば良いと考えております。

関根副委員長 岩槻高校案の方は、新校になってからもこういうことをやっていくという姿勢で作ったものだったので、新校になる際のPR活動ということが念頭になかったので、そこについては抜けていますが、その中で、部活動を、例えば基本方針のウのところで入れてはありますが、今後のことを考えたら地域移行ということもあるので、部活動という言葉は余り出さない方が良いでしょう。どちらが良いのでしょうか。今までの感覚で、部活動での中高連携ということもありますし、例えば英語スピーチ大会を岩槻新校杯という形で、教員も絡んでいけるとすごく良いのかと思って案を作っていたところではありますが。部活動は非常に盛んで、頑張ってもらいたい、新校でも生徒の居場所と活躍する場がある学校になってもらえれば良いかなと思っています。部活動は必須なのかと考えつつも、これからの地域移行のことを考えたら、表現については部活動と言わない方が良いでしょう。その辺りは、県の方でうまく表現を考えていただければと思います。

事務局 なかなか部活動の地域移行というのが、先々どうなるか、スケジュール感も含めて難しいところがありますが、いずれにしても、学校の強みになる部分であれば、全面に出していく必要があると思いますし、それがなかなか、施策の変更や在り方、考え方の見直しがあって、形が変わっていくのであれば、そこは文言を考えていく必要があるかと思っています。今は申し訳ありませんが、はっきりとしたことは申し上げられません。

臼倉委員長 生徒募集に関しては今も、各学校で非常に心を砕いているところがあって、現場感覚ではないですが、教員が持っている感覚も大事かと思っていますので、その辺りをうまく汲み取りながら案を作っていただければと思います。その他よろしいでしょうか。では、その先の説明をお願いします。

事務局 (岩槻新校基本計画検討(案)のうちその他について説明)

臼倉委員長 その他の欄については御覧おきをということですが、何か、今まで話に出てこなかったところも含めて全体を通して、これはということがあればお出しただければと思います。渋谷委員、お願いします。

渋谷委員 地域企業と触れ合う機会を御提供させていただくということで一つ申し上げさせていただきます。岩槻工業団地では、オープンファクトリーという取組をしております。毎年11月の金曜、土曜でやっております。去年は4年目が終了したところでごさいます、去年の新しい取組として、中学生リポーターが企業に向いて、働いている人にインタビューをして、それを動画で撮影してそれをオープンファクトリーの特設サイト、お時間があれば岩槻工業団地オープンファクトリーで検索していただければ特設サイトを見ることができます。そのリポーターがレポートした様子を動画で撮影したものをオープンファクトリーのホームページにア

アップしております。新校でも、近所の企業と触れ合う機会の一つのツールとしてそういった機会を利用していただけると良いかなと思っています。こちらは、J:COMだったりテレ玉だったりで放映されているものでございますので、メディアに興味がある方にも、有効かなと思います。なかなかPRが少なく、やっていることを皆さんに知っていただけていないということが我々の反省点ではありますが、御説明させていただきました。

関根委員長 せっかくですので、渋谷委員に質問を一つしたいのですが、企業の観点からのSDGs、教育とかそういった視点での取組をやられているのかなと思いますが、SDGs教育というのは新校でもうたっております。さいたま市でもやっておりますので、やはりどうしても教育の分野だけに絞ってしまうと、発想とか、教員のテリトリーでしかものが見えない、それからカリキュラムに入れるのが難しいんですね。その辺何か、もし地元でこういうことができるということがあれば何らかの形で協力できるかと思えます。STEAM教育となると難しいと思いますが、工業部の分野であればまた違う発想になるかと思えますが、その辺いかがでしょうか。

渋谷委員 ありがとうございます。SDGsの取組としてはですね、岩槻工業団地では、積極的に取り組んでおられて、各企業で埼玉県、さいたま市のSDGsの認証を受けている企業も多数ございます。校長先生の御質問に関してですが、SDGsというどうしても環境とか、そういうのが頭に来てしまうのですが、我々、ワイエス工業所がSDGsとして取り組んでいるのは三つありまして、まずは人づくりです。あと、地域社会と密接に関わるということで、就業支援施設と連携を取って、我々の仕事の一部をお願いしていたりとか、そういったものもSDGsの一つでございます。次回御説明する場があれば準備して、正確なところを御説明したいと思いますが、SDGsは避けられないというか、若いうちからそういう認識を持っていただければなと。ただ、どうしてもメディアとかでは、環境だとかそういうのが頭に来てしまうのですが、非常に大きなくくりになってしまうので、もっと、人づくりであったり、地域社会と連携して進めるというのは、本質かなというか我々ができる小さなことかなと考えております。また、ITとかAIとかという単語も出てきましたが、今、企業はDX＝デジタルトランスフォーメーション、デジタル技術を使って工程を効率良く進めていくということで、DXという単語も頭に入れていただけると良いかと思えます。これから産業界のみならず、一般生活においてもDXは避けて通れないと考えております。当社もDXの取組は3年前から進めておられて、人がやっていた部品の検査を今はコンピュータがカメラ、レンズを使って自動検査しています。これもDXの一つの取組です。なので、DX＝デジタルトランスフォーメーションを、キーワードとして頭に入れていただければ有り難いなと思えます。

臼倉委員長 ありがとうございます。時間をオーバーしてしまい申し訳ございません。資料3につきまして、全体を通して何かあれば最後にお伺いしたいと思います。ありがとうございます。よろしいでしょうか。それでは、議事進行に御協力いただきましてありがとうございました。以上で協議を終わります。